



尾道市は瀬戸内のほぼ中央に位置し、山陽自動車道、瀬戸内しまなみ海道に加え、平成27年（2015年）3月に全線開通した中国やまなみ街道により、広域拠点としての機能は高まり、まさに「瀬戸内の十字路」としての発展が大いに期待される都市です。また、尾道といえは、坂と寺のまちとしても有名です。幾百年の歴史を刻む25ヶ寺が

建ち並び、古いたたずまいを残す家々と趣のある坂道や路地など、どこか懐かしい光景が旅人や多くの文人などに深く愛され、文学や映画の舞台ともなっています。平成27年には「尾道水道が紡いだ中世からの箱庭的都市」として、日本遺産に認定されました。そして、尾道は足利氏に深い関係のあるまちでもありません。



吉和太鼓おどり

1336年（建武3年）2月、後醍醐帝軍に一旦は敗れた足利尊氏は西走の途中、備後鞆の浦で光厳院より院宣を賜り尾道に入りました。尊氏一行は浄土寺に参籠し、戦勝挽回を祈願するとともに、瀬戸内海の地理に明るく強力な海上輸送力をもつ尾道の豪商達を味方につけ、彼らの水先案内により九州へと向かいました。やがて、九州多々良浜の決戦で大勝した尊氏軍は、東上の途中、再び尾道に寄港しました。ここで、将兵達の食糧補給や休養にあたりながら尊氏は主だった武将達と共に浄土寺に参籠し、戦勝の御礼と今後の加護を祈願しました。また、尊氏は家臣らと歌会を催し、自詠の和歌七首を含む「三十三首法楽和歌」を奉納しました。



浄土寺

その後、尊氏は湊川で勝利をおさめ幕府を開くと尾道の豪商達に報いるため、自由な交易を認めるなどの便宜をはかりました。そして尾道は経済港として長く栄え、今日に至っております。

■行事

● 4月下旬

尾道みなと祭

● 7月下旬

おのみち住吉花まつり